

年間第 27 主日

PIME DAY

「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。¹⁵ はっきり言っておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」¹⁶ そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。

マルコ 10・14-15

イエス様がこの地上に来られた目的は、何でしょうか。それは罪人、捨てられた人、追い出された人、病気の人、忘れられた人など、小さな人たちを神の国に優先して招くためでした。

今日、イエスは私たちに、神の国を地上に確立したいのであれば、同じことをするように勧めています。それは、小さな人たちを無視するのではなく、歓迎するということです。

私たちは、今日、小さな人々はどこにいるのか、だれなのかと尋ねなければならないでしょうか。私たちの周りには、無力な人、恵まれない人、見捨てられた人、希望のない人、職のない人、避難している人、絶望している人、孤独な人など、さまざまな人がいるでしょう。これらの人々が小さな人なのです。

私たちが、彼らを助けるために三つのステップが考えられます。

第1のステップは、一番大切なことですが、彼らが存在することを認識することです。多くの場合、私たちは彼らを無視し、注意を払わないのではないでしょうか。

第2のステップは、簡単なことから始めることです。例えば、笑顔を見せることです。マザー・テレサはかつて、「誰かに微笑むたびに、それは愛の行為であり、その人への贈り物であり、美しいことなのです」と言っていました。

また、簡単な励ましの言葉をかけることも大切です。大きなことはできなくても、小さなことをイエスの大きな愛で行うことはできます。

第3のステップは時間をかけてお互いの話に耳を傾けることだと思っています。多くの場合、私たちはお互いの話に耳を傾けません。私たちは多くのことに気を取られています。お互いに耳を傾けることはとても互いを理解するのに役に立ちます。神様は私たちに2つの耳と1つの口を与えてくださいました。私たちはそれらを十分に使うべきです。

ある人が言いました。「コミュニケーションの最大の問題は、理解するために聞いているのではなく、相手の言うことを否定するために聞いていることです」。

大切なのは、何事も愛をもって行うことです。そうすれば、世界を少しづつ変えていくことができるかなと私は思っています。

さて、今週の日曜日、府中カトリック教会では PIME デーを迎えます。PIME とは Pontificium Institutum pro Missionibus Exteris の略です。ラテン語です。日本語では、「教皇庁海外宣教部」といいます。日本では『ミラノ宣教会』として知られています。ミラノ外国宣教会は教皇庁立の外国宣教会です。1950 年には日本での宣教活動が始まりました。簡単に言うとミラノ外国宣教会は四つの働きに分けることができます。それは、1) "Ad Gentes"（「キリスト教知らない民族へ使わされる」）、2) "Ad Extra"（「自分たちの國の外へ使わされる」）、3) "Ad Vitam"（「生涯かけて宣教する」）、4) "Insieme"（「一緒に」兄弟愛・兄弟の生活をつくりだす）。

私たちの主な使命は、世界中の人々にイエスの福音を伝えることです。実際に宣教師になるためには、多くの犠牲と挑戦が必要です。福音を伝えるためには、家族や国、自分の文化を捨てなければなりません。しかし、受け取ることよりも与えることに大きな喜びがあります。

私が宣教師司祭になりたいと思った理由はシンプルです。イエス様の喜びを人々に伝えたいからです。イエス様のミッションは何かすごいことではなく、ありのままの自分でイエス様の喜びを多くの人々と分かち合うことです。もちろん、宣教師司祭だけではなく、洗礼を受けた人は誰もが宣教者ですが、私は宣教師司祭としてイエス様の喜びを分かち合うために活動しています。

最後に申し上げたいことは、福音はすべての人のためのものだということです。教会のミッションは、司祭や修道士だけの仕事ではありません。しかし、私たちすべてのクリスチャンは、信仰の喜びを知ることによって、自分の人生をかけて福音を宣べ伝えるように私たちは召されています。他の人々を生けるキリストに触れさせるように召されています。

